

「主体性」は、社会人基礎力の入り口であり出口である。

❖ 「主体性」のある人、「主体性」を発揮する人の定義

「人間として、自分の人生に起こりうる全ての場面において、自分の責任で判断を選択し、自らその責任を取れる人」

❖ 「責任」=responsibility=response (反応) +ability (能力)

❖ 「責任」=「自分の反応を選択することができる能力」

❖ 自分の身に何が起こるかではなく、どのように反応するかが重要であるという考え方が基本となっています。「遺伝子のせい」、「過去の経験のせい」、「周囲の環境のせい」という考え方の人を「反応性」のある人、「反応性」を発揮する人と定義します。「反応性」の典型は、「動物」です。

❖ 外的な出来事・刺激に即反応するのが「反応性」のある人、「主体性」のある人は、外的な出来事・外的な刺激に、即反応せず、「**理性の間**」を置き、反応できる人。「理性の間」の中身は4つの要素で構成される。①自覚、②想像力、③良心、④自由意志の4つです。

①自覚：自分の立場・状態・能力を客観的に見つめることができる能力

②想像力：現在の目の前の状況を超えて、頭の中で新しい可能性を想像できる能力。かつ、想像したイメージを目指そうとする能力。

③良心：正しい道徳・哲学・思想に基づき、善と悪を区別し、今の思いや行動が、人間として正しいか否かを判断する能力。

④自由意志：外部の環境や価値観の激変などの、外的な要因・刺激に流されたり、縛られたりすることなしに、自覚や想像力、良心に基づいて考え方や行動・言動を選択できる能力



「主体性」の心臓部、「4大理性」チェックポイント

- ・全くそうは思わない：0点・検討する余地はある：1点・どちらともいえない：2点
 ・そのように努力している：3点・いつもそうしている：4点

①自覚		点数
1	人の意見や助言・指導を聞いて、そこから学ぶことができる。	
2	自分の物の見方と考え方や感情を客観的に検証し、必要と思えば、それを変えることができる。	
3	自分自信が守るべき価値観と、育ちや周りの人たちから与えられる影響の区別をすることができる。	
4	自分の物の見方と考え方・行動や態度が、実際の結果にそのように影響を与えているかを常に意識している。	
②想像力		
1	困難に直面したとき、第三者の助言を求め、何としても解決策を見出そうとする。	
2	いざ、行動を起こす時には、事前にシミュレーションを行い、計画する。	
3	自分の目の前の現状が如何に困難な状況でも、明るい将来を想像できる。	
4	自分の目標を前に、イメージトレーニングし、成功した自分の姿を想像できる。	
③良心		
1	人がどう評価するかより、何が人間として正しい生き方かを自分に問い、行動できる。	
2	「今、〇〇をすべきだ。」「今、〇〇をしたいが、すべきではない」と心の中で、悪と善の戦いの葛藤を感じる事ができる。	
3	自分の心の中で邪な事を思ってしまったても、社会一般の規範と考え方との違いを意識できる。	
4	人権・誠実さ、優しさ、思いやりの大切さ、利他の心など普遍的に人間としての正しい生き方・法則を深く意識している。	
④自由意志		
1	気分や感情に左右されず、自分との約束や自らの決意を守る事ができる。	
2	自分に対しての約束や他人との約束を厳守する力を持っている。	
3	生活の中で自分にとって意義のある目標を立てて、確実にそれを実行する力がある。	
4	流れに逆らったり、空気を打破し、自分の決意や心の指令に基づいて、行動をする力がある。	

- ・0～28点 4大理性が完全に隠れてしまっています。・29～48点 4大理性を普通に活用しています。さらにレベルを高める事をお勧めします ・49～64点 素晴らしい最高のレベルです。

社会人基礎力養成に役立つ書籍を紹介する
「社会人基礎力養成本棚」 <平成27年度の推薦図書その1>

嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え

本書は、フロイト、ユングと並び「心理学の三大巨頭」と称されるアルフレッド・アドラーの思想(アドラー心理学)を、「青年と哲人の対話」という物語形式で紹介している。欧米で絶大な支持を誇るアドラー心理学は、「どうすれば人は幸せに生きることができるか」という哲学的な問いに、きわめてシンプルかつ具体的な“答え”を提示している。アドラーの「幸福論」は、自分自身が、自分らしく生きていくためのヒント、社会で仕事を行う上での「ものの見方と考え方」の基本について、示唆を与えてくれる。



岸見一郎 (きしみ・いちろう)

哲学者。1956年京都生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程満期退学。

専門の哲学(西洋古代哲学、特にプラトン哲学)と並行して、1989年からアドラー心理学を研究。精力的にアドラー心理学や古代哲学の執筆・講演活動、そして精神科医院などで多くの「青年」のカウンセリングを行う。日本アドラー心理学会認定カウンセラー・顧問。著書に『アドラー心理学入門』『アドラー 人生を生き抜く心理学』など。

古賀史健 (こが・ふみたけ)

ライター・編集者。1973年生まれ。出版社勤務を経て1998年に独立。書籍のライティング(聞き書きスタイルの執筆)を専門とし、ビジネス書やノンフィクションで数多くのベストセラーを手掛ける。1999年に岸見氏の『アドラー心理学入門』に衝撃を受け、10数年越しで本企画を実現。本書では共著者として執筆を担当した。著書に『20歳の自分に受けさせたい文章講義』がある。

定価：本体1,500円＋税 ISBN：978-4-478-02581-9

社会人基礎力養成に役立つ書籍を紹介する
「社会人基礎力養成本棚」 <平成27年度の推薦図書その2>

自助論(サミュエル・スマイルズ)

自助論(Self-Help) は、1859年発行のサミュエル・スマイルズ著の成功伝集である。300人以上の欧米人の成功談を集めたもので、アダム・スミスやニュートン、シェークスピア、ミケランジェロ、コロンブス、ガリレオ・ガリレイ等、様々な分野で活躍した有名、無名の人々のエピソードや言葉を引用しながら、「自助」の精神の重要性を訴えている。「世界を動かそうと思ったら、まず自分自身を動かせ」と語ったソクラテス、「天才とは、一つの問題に深く没頭した結果生まれるものだ」としたビュフォン、「死やいかなる苦行が待ち受けていようとも、一つの魂を救うためには、たとえ一万回でもその中に飛び込む覚悟がある」と語ったザビエルなど、社会人基礎力の中の「主体性」を発揮しきった人間像に迫っている名著である。成功を収めた偉人たちの言葉からは、時代を超えて通用する一人一人の人間の社会人基礎力を体感することができる。



文庫: 304ページ
出版社: 三笠書房; [改訂新] 版 (2002/3/21)
ISBN-10: 483797239X
ISBN-13: 978-4837972396
発売日: 2002/3/21
商品パッケージの寸法: 15 x 11 x 2 cm

アンケート調査の概要

学生へのアンケート調査

- ・ 調査方法：緑丘企業等セミナー開催時の学生直接記入による調査
- ・ 調査日：平成26年10月1日
- ・ 調査対象：国立大学法人小樽商科大学学部3年生
- ・ 有効回答：129件
- ・ 実施主体：公益社団法人緑丘会

※平成26年10月1日に、小樽商科大学で開催された公益社団法人緑丘会主催の「緑丘企業等セミナー」の中で、コンサルタントによる「社会人基礎力」に関する講演が行われ、その後にアンケートを実施。

企業へのアンケート調査

- ・ 調査方法：緑丘企業等セミナー参加企業人事部へのアンケート調査
- ・ 調査期間：平成26年11月～平成27年4月
- ・ 調査対象：緑丘企業等セミナー参加確定企業
- ・ 有効回答：66件
- ・ 実施主体：公益社団法人緑丘会